

献血サポーターご紹介コーナー

Vol.20



主に北陸三県の高速道路の改築・維持・修繕その他の管理を行われている会社です。安全を何よりも優先され、安心、快適な高速道路空間を24時間365日提供し、地域の活性化や暮らしの向上、日本の社会・経済の成長、世界の持続可能な発展を目指し、事業を行っております。



献血には、昭和56年から現在に至るまで、毎年春と秋の年2回ご協力をいただいております。多年にわたる献血協力のご功績により、平成22年には石川県知事感謝状を受けられており、さらに平成29年7月には厚生労働大臣感謝状を受けられます。



当社は、グループ会社とともに、社会貢献活動の一環として従業員の献血活動を実施しております。当社は転勤が多い会社ですが、名古屋地区などから金沢支社に異動となった社員にも積極的に呼びかけ、絶えず献血活動に貢献し続けております。これからも献血を通じてより地域に根差した信頼される企業となるべく努めてまいります。

(総務企画部 総務チーム 三鍋 翔太 様)

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.



「献血サポーター」とは
医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血に積極的に協力していただける企業・団体の皆さまです。

献血サポーターに関するお問い合わせ

石川県赤十字血液センター
献血推進課 TEL (076) 254-6372
または、献血サポーターホームページ <http://www.ken-sapo.jp/>

七夕献血キャンペーンを開催しました

7月2日(日)に、石川県学生献血推進委員会が主催する「七夕献血キャンペーン」を開催しました。学生ボランティア総勢64名が、アピタ松任店及び献血ルーム ルキューブで、手作りのプラカード等を掲げて献血の呼びかけを行いました。また、輸血を受けられた患者さんからのメッセージを訪れた皆さまにご覧いただいたほか、献血して下さった方に患者さんへのメッセージを書いていただいた短冊を、会場に設置した七夕笹に飾りました。

キャンペーン実施後、患者さんへのメッセージを県内医療機関にお届けしました。キャンペーンを通して、学生ボランティアが、患者さんと献血者の皆さまの架け橋になることができました。ご協力ありがとうございました。



お知らせ **サマー献血キャンペーン 8月20日(日)開催!**



会場 イオンタウン示野、献血ルーム ルキューブ
◎献血にご協力いただいた方には、「スグヒエスカーフ」プレゼント!



いよいよ夏真っ盛りとなりました。皆さまには、暑い中献血ルームや献血バスにお越しいただき誠にありがとうございます。献血前後だけでなく、普段からこまめに水分や休憩をとって、くれぐれも熱中症などにお気を付けください。また、8月に開催するサマー献血キャンペーンでは、学生ボランティアが献血会場周辺で呼びかけを行います。見かけられましたら、ぜひご協力をお願いします!

(さちしお編集委員 N)

献血ルーム くらつきでお待ちしています!

昨年10月末の石川県赤十字血液センターの移転に伴い、「献血ルーム くらつき」として新たに生まれ変わりました。

皆さまにリラックスして献血していただけるような雰囲気づくりを心掛けていますので、献血が初めての方も、お気軽にお越しください!

スタッフ一同、皆さまのお越しをお待ちしています!

▶▶ 石川県庁前(金沢市鞍月東1-1) ◀◀

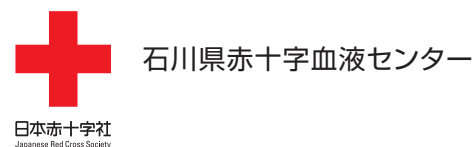
【受付時間】

- 月～金曜 [400ml/200ml献血]
9:00～11:40、13:00～16:45
[成分献血]
9:00～11:00、13:00～16:00
- 土曜 [400ml/200ml献血]
8:30～11:40、13:00～16:15
[成分献血]
8:30～11:00、13:00～15:30

【定休日】 日曜・祝日
【駐車場】 16台

おすすめ!
「平日の成分献血」

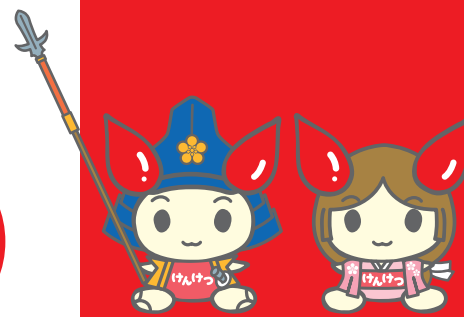
※平日は、比較的待ち時間が少ないです



さちしお

SACHISHIO

【さちしお】
「血液事業をとおして、みなさまの幸せに貢献する」との願いを込め、幸せの「幸(さち)」と「血潮(ちしお)」を組み合わせ、名付けられました。

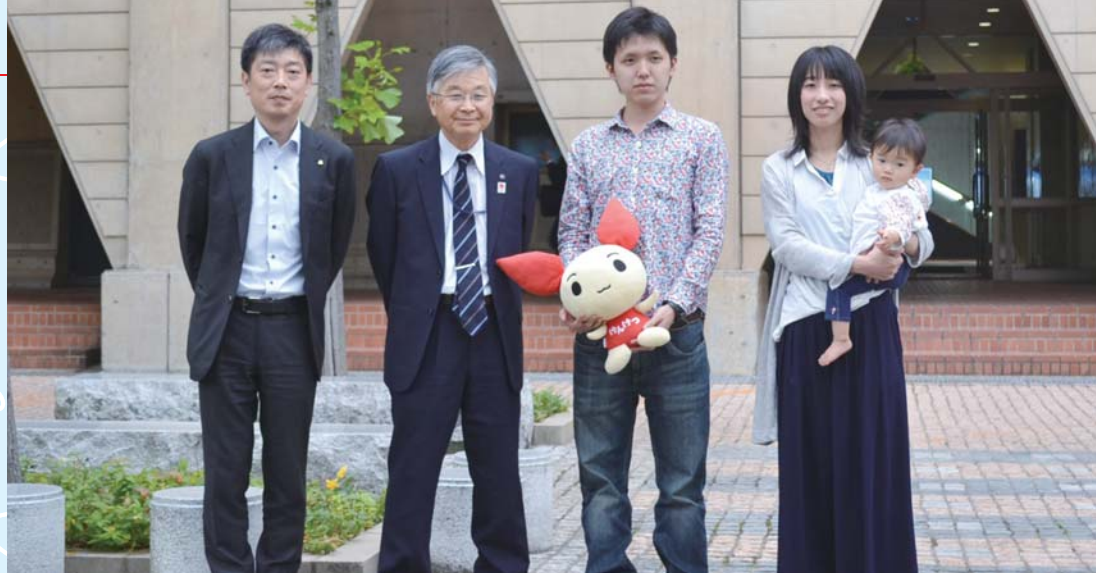


献血キャラクター けんけつちゃん
石川県バージョン 利家チッチとまつチッチ

Vol.130
2017.07

2回にわたり、石川県内で献血活動に邁進されている若い世代の方々に、その取り組みや献血への思いなどを伺います。

第1回は、金沢工業大学で学内献血を企画・運営されている学友会学生健康委員会と、その活動をサポートされている学友会支援室の方に、石川県赤十字血液センター塩原所長がお話を伺います。



金沢工業大学 事務局長 学友会支援室 課長 松本 和也 さん

石川県赤十字血液センター 所長 塩原 信太郎

金沢工業大学 第五十期学友会 学生健康委員会 委員長 藤田 貴志 さん (現委員長)

金沢工業大学OG 第四十三期学友会 委員長 竹内 みのり さん (元委員長)

特別座談会 I

K.I.T. 金沢工業大学 学友会 学生健康委員会に聞く

学内献血を通して 育まれる“年輪”



塩原 金沢工業大学学友会は、昭和48年から献血にご協力いただいています。平成15年からは実に14年間連続で学内献血者年間千人を達成されています。多大なご協力をいただき、本当にありがとうございます。

藤田 私たちも、多くの患者さんの役に立つことができ、とても嬉しく思っています。

塩原 学内献血の際には検診医としてよく伺いますが、学生さんがとても気軽に献血に協力してくれる、という印象があります。

献血したことのない方には「献血って怖い」という先入観を持たれている方が多いんです。血液は体を維持するために不可欠なものなので、人体は血液を体外に出さないようにできている。だから躊躇する気持ちが生じるのもごく自然なことなんです。その点、金沢工業大学の皆さんは献血に対する敷居が低いように思いますが、どんな秘訣があるのでしょうか。

藤田 そうですね、秘訣というわけではないですが、友達同士で気軽に協力してくれる学生が多い、ということが挙げられると思います。友達が献血に協力しているのを見かけたり、友達に誘われたり、きっかけは様々ですが、友達と一緒に自分も協力してみよう、と積極的に協力してくれる学生が多いですね。さらに、同じクラスやゼミの仲間、サークル仲間など、周りの学生にも声をかけてくれることもあります。近隣の金沢工業高等専門学校の学生もよく献血に協力してくれます。

竹内 私の時もそうでしたね。連れ立って献血に協力してくれる学生が多かったです。自分の友達にもよく献血を呼びかけました。するとその友達、またその友達…といったふうに献血の輪がどんどん広がっていききましたね。中には献血の呼びかけまで手伝ってくれる友達もいました。献血を通して仲間がどんどん増えていって、みんなでワイワイと活動でき、とても楽しかったです。



藤田 それから、地域の皆さまにも学内献血へのご支援やご協力をいただいていることも大きいと思います。大学周辺のお店などに献血ポスターを掲示していただいたり、大学周辺の企業にお勤めの方が本校に来校されて献血して下さったりしています。また、野々市市や金沢南ライオンズクラブの皆さまからは献血記念品をご提供いただいています。この記念品が好評で、これがもらえるなら献血したい、という学生も多いです。

竹内 人の役に立って、しかもジュースや記念品がもらえるんだから、学生にとって魅力的ですよね(笑)

塩原 私も金沢工業大学で献血したいくらいうらやましいです。(一同笑)



塩原 地域の皆さまも、金沢工業大学での献血は「地域の献血」

松本 学内献血をサポートしていて、献血して下さった方から「金沢工業大学の献血は雰囲気がいいからまた来ます」などと声をかけていただくこともあります。献血しやすい環境を整えられるのは、学友会の頑張りはもちろんのこと、地域の皆さまが学友会の献血活動を応援してくださっているおかげです。

という認識でご協力いただいているのでしょうか。学内から地域社会へと協力の輪が広がっているんですね。献血の“年輪”が育っている、そして年を経ることに幹がどんどん太くなっている、という感じですね。



松本 仰る通りです。学内献血が、学内では先輩から後輩へ受け継がれるボランティアの伝統となり、また地域社会では地域の皆さまとの連携の輪や、学生の地域貢献の場の拡大にもつながっている。本当にありがたいことです。

また、私自身も献血して思ったんですが、血液センターの看護師の皆さんの技術が高くて痛みが少ないことも、学生が協力しやすい理由の一つだろうと思います。

塩原 そう言っていただけたら嬉しいです。当センターの職員は日頃から地道に技術を磨いています。特に採血に携わる看護師については、日本輸血細胞治療学会認定アフレーシスナースの資格取得をバックアップしており、現在3名のアフレーシスナースが在籍しています。当センターの看護師は、全国でも有数の技術を持っていると自負していますので、初めて献血される方も安心してご協力いただけたらと思います。

竹内 学生時代に献血した時のことを思い出してみても、痛かったり腫れたりした、ということが全くありませんでした。血液センターの看護師さんの高い技術のおかげだったんですね。

塩原 ありがとうございます。これからも皆さんに安心して献血していただけるように、職員一同研鑽を積んでまいります。

社会貢献のきっかけとしての献血

塩原 金沢工業大学の皆さんは、卒業後様々に活躍されていますが、社会人になっても献血に協力して下さる方が多いですね。日ごろ県内各地の企業・団体の皆さまに献血にご協力いただいているんですが、金沢工業大学のOB・OGの方が社員でいらっしゃって献血して下さることがあるんです。また、休日を利用して献血ルームにお越し下さる方もいます。

竹内 そうですね。今でも献血に協力しているOB・OGは多いと聞きます。私自身もそうですが、学生時代に献血した経験があることで、社会人になっても機会があれば協力したいと思われる方が多いんじゃないかと思います。

私の職場にも献血バスが来てくださるんですが、しばらくは献血基準を満たさず献血できないのが残念です。少しでも協力できればと思い、職場の皆さんに声をかけさせていただいています。

塩原 ありがとうございます。実際に献血していただくことができなくても、竹内さんのように周りの方々にお声がけいただくだけでも献血につながるボランティアです。お友達やご家族、学校や職場の方々も、献血について話していただくだけでも嬉しいなあと思っています。

松本 現役の学生にとっても、献血協力は社会貢献の良い機会となっています。学内でできる身近なボ



ランティアとして気軽に参加できるので、本学での献血や献血の呼びかけが社会貢献の第一歩となる学生も多いのではないのでしょうか。

塩原 前身の金沢工業高等専門学校の頃から継承されている貴大学の建学理念の中に社会貢献がうたわれていますが、学生時代から地域社会の一員として「誰かの役に立ちたい」という思いをもっていらっしゃる方が、献血へのご協力につながっているんですね。

15年連続 学内献血年間千人達成に向けて

塩原 平成28年度には、石川県内でのべ43,000人の方が献血していただきました。一年間に2回以上ご協力いただいた方は半分以上でした。もちろん、体調など様々な理由で2回目以降の献血にご協力いただけなかった場合もあるの



ですが、献血可能な方にもう一度ご協力いただくことができれば、確保できる血液量は大きく変わります。だから、金沢工業大学の学内献血で、複数回にわたって協力して下さる方が多いのは、とても貴重なことなんです。

松本 今年は、学園創立60周年、また学友会創立50周年にあたります。しかも、今年度も学内献血年間千人を達成することができれば、15年連続達成ということになるので、現学友会の皆さんも力が入っているところで。

藤田 プレッシャーでいっぱいです(一同笑)。ですが、先輩方が努力して積み上げてこられた伝統なので、ぜひ今年度も学内献血年間千人の目標を達成したいと思います。

松本 現在、本学の学友会組織には、約150名が在籍していますが、その組織力を発揮して献血に協力してくれたり、献血の呼びかけをしてくれたりすることで、学内献血がもっと盛り上がりいけたらいいですね。本学としても、学友会の皆さんの献血活動を盛り立てるべく、学内外の関係先との連携を積極的にとれるようバックアップしていきます。

竹内 金沢工業大学学友会は石川県学生献血推進委員会(県内11の大学・短大の学生ボランティアで構成される学生献血推進組織)の一員でもありますね。年間を通して、他大学の学生と一緒に県内各地で献血の呼びかけやPRを行っていますが、その活動の中でいろいろと意見交換する機会が多いんじゃないでしょうか。学内献血での藤田さんたちの頑張り、他大学での学内献血のヒントになったらいいですね。

藤田 そうなれるように頑張ります。応援よろしく願います。

塩原 お話を伺って、改めて献血が皆さまのような若い方々に支えられていることを実感しています。今後も献血にご協力よろしく願います。本日は皆さまどうもありがとうございました。



(撮影協力:金沢工業大学)